

問1 1467年に発生した応仁の乱は、その後の日本の政治情勢にどのような決定的な変化をもたらしましたか。 (2026年 栃木公立入試 類似)

1. 将軍の権威が大きく衰退し、実力のある者が上の立場をしのご「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと突入した
2. 幕府がキリスト教の布教を禁止したため、フランシスコ・ザビエルが九州から国外へ追放される事態となった
3. 天皇中心の政治を復活させるため、地方の武士が京都に集結し、建武の新政に次ぐ新しい朝廷政治が確立された
4. 守護大名が団結して幕府を支える体制が整い、幕府による全国支配がより強固なものとなった

問2 室町時代の外交について、足利義満が明（みん）との貿易において「勘合」を用いた目的として、最も適切な記述を選びなさい。 (2017年 富山県公立入試 類似)

1. 東シナ海などで活動していた「倭寇」と呼ばれる海賊と、幕府が公認した船を明確に識別するため。
2. キリスト教の宣教師が貿易船に紛れ込み、国内で布教活動を行うのを未然に防ぐため。
3. 輸入される宋銭の量を制限し、国内の物価が急激に変動するのを抑えるため。
4. 明から派遣された使節団に対し、将軍が日本の王であることを誇示する儀式として用いるため。

問3 北山文化を代表する建築物である鹿苑寺金閣（金閣）の構造に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 愛媛公立入試 類似)

1. 一層と二層を寝殿造風の住宅とし、三層を禅宗の仏殿風とした三層構造の楼閣建築である
2. 建物全体を簡素な書院造とし、禅の精神を重んじるために装飾を排した二層構造の建築である
3. 外壁に金箔を貼らず、銀を基調とした色彩でまとめられた質実剛健な武家造の建築である
4. すべての階層を唐様（禅宗様）の仏殿として統一し、大陸の建築技術を完全に再現した建築である

問4 ボッティチェリの絵画「春」に代表される15世紀の新しい文化運動と、同時期に進められた海外進出の背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛知公立入試 類似)

1. 人間性の解放を目指すルネサンスの精神が広がる中、東洋への関心や航海技術の向上により、コロンブスがスペインの援助で大西洋を渡った。
2. 教皇の権威が頂点に達したことで、神中心の文化がより強固になり、聖地奪還を目的とした大規模な海外遠征が頻繁に行われた。
3. 宗教改革の影響でカトリックの勢力が衰退したため、新たな布教先を求めてポルトガルの航海士たちが大西洋の島々に到達した。
4. 封建社会が崩壊し、国王の権力が弱まったことで、各地の領主が自由な貿易を求めて独自の判断で新大陸への探検を開始した。

問5 室町時代に足利義満が明との間で開始した貿易では、明の皇帝からの文書に周辺諸国の王が挨拶に訪れている様子が記されており、日本からの貢ぎ物に対して礼をもって対応する形式がとられました。このように、相手国の皇帝の臣下となる形式をとることで成立した正式な外交および貿易関係を何といいますか。 (2019年 静岡公立入試 類似)

1. 朝貢貿易
2. 私貿易
3. 自由貿易
4. 不平等条約に基づく貿易

問6 室町時代、日明貿易（勘合貿易）を利用して中国の明に渡り、現地の技法を学んで日本独自の水墨画を大成させた禅僧は誰か答えなさい。 (2021年 高知公立入試 類似)

1. 雪舟
2. 運慶
3. 狩野永徳
4. 葛飾北斎

問7 室町幕府の第八代将軍であり、京都の東山に慈照寺（銀閣）を建立したことで知られ、簡素で落ち着いた文化を育んだ人物は誰ですか。 (2015年 山口公立入試 類似)

1. 足利尊氏
2. 足利義満
3. 足利義政
4. 足利義持

問8 三代将軍の足利義満が明（中国）と国交を結び、勘合を用いた貿易を開始したことは、当時の日本経済にどのような変化をもたらしましたか。その背景と影響について述べたものとして正しいものを選んでください。 (2019年 広島公立入試 類似)

1. 明から大量の銅銭が輸入されたことで、年貢を貨幣で納める代金納が広まるなど、貨幣経済が社会に深く浸透した。
2. 庸や調といった古代からの税制を維持するため、明から輸入した銀を全国の農村へ配布する仕組みが整えられた。
3. 地租改正によって土地の価格に応じた現金納税が義務付けられ、それに対応するために明との貿易額が制限された。
4. 国内の貨幣不足を解消するために金座や銀座が設置され、独自に鑄造した金貨や銀貨が勘合貿易の決済に使われた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 将軍の権威が大きく衰退し、実力のある者が上の立場をしのご「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと突入した	将軍の跡継ぎ問題や有力守護の対立から始まった応仁の乱は、11年間にわたって主に京都を戦場とし、幕府の統制力を完全に失墜させました。これにより、各地で守護代や国人などの下の者が実力で主君を倒す「下剋上」が起こり、戦国大名が割拠する時代へと移行しました。
問2	答え 1 東シナ海などで活動していた「倭寇」と呼ばれる海賊と、幕府が公認した船を明確に識別するため。	日明貿易が「勘合貿易」と呼ばれる理由は、明の皇帝が発行した「勘合」という証明書を使用したことにあります。この背景には、当時の海域で猛威を振るっていた「倭寇」の問題がありました。明は倭寇の略奪に苦しんでおり、正式な貿易を行う条件として倭寇の取り締まりを義満に要求しました。そこで、本物であることを証明する札を船に持たせることで、密貿易や海賊行為を行っている船と、幕府の公認を受けた船を厳格に区別する制度が確立されました。
問3	答え 1 一層と二層を寝殿造風の住宅とし、三層を禅宗の仏殿風とした三層構造の楼閣建築である	金閣は、当時の社会背景である「公家文化と武家文化の融合」を建物そのもので体現しています。下層部は平安時代以来の貴族の住居形式である「寝殿造」の要素を取り入れた和風の作りであり、最上階の三層目は鎌倉時代以降に伝来した「禅宗様」の仏殿形式で作られています。これに金箔を貼ることで、幕府の強大な権力を視覚的に示しました。
問4	答え 1 人間性の解放を目指すルネサンスの精神が広がる中、東洋への関心や航海技術の向上により、コロンブスがスペインの援助で大西洋を渡った。	ルネサンス期には、中世の神中心の考え方から脱却し、人間や自然をありのままに捉えようとする精神が育まれました。この合理的な考え方や地球球体説、羅針盤の改良といった科学的背景が、コロンブスのような未知の航海への挑戦を支えました。当時、中央集権化を進めていたスペインなどの主権国家が、富や領土の拡大を求めてこれらの航海を国家事業として援助しました。
問5	答え 1 朝貢貿易	室町時代の対明貿易は、当時の東アジアの国際秩序であった「華夷秩序」に基づいて行われました。足利義満は明の皇帝から「日本国王」として認められ、貢ぎ物を送ることで正式な外交ルートを確保しました。これにより、倭寇（海賊集団）と区別された安全な貿易が可能となり、多大な経済的利益と文化的な影響を日本にもたらしました。
問6	答え 1 雪舟	雪舟は室町時代に活躍した禅僧で、幕府が派遣した勘合船で中国の明へ渡りました。彼は中国で本格的な水墨画の技法を習得し、帰国後は日本の自然に合わせた独自の構図を確立しました。代表作には「四季山水図巻」や「天橋立図」などがあります。
問7	答え 3 足利義政	彼は政治の実権からは距離を置くようにはなりましたが、銀閣を拠点に茶の湯や生け花、書院造といった後の日本文化の源流となる東山文化を大成させました。武家の力強さと禅宗の精神性が融合した、わび・さびを基調とする文化の保護者として歴史に名を残しています。
問8	答え 1 明から大量の銅銭が輸入されたことで、年貢を貨幣で納める代銭納が広まるなど、貨幣経済が社会に深く浸透した。	足利義満が始めた日明貿易（勘合貿易）では、明から「永楽通宝」などの銅銭が大量に持ち込まれました。当時、日本国内では貨幣が鑄造されていなかったため、これらの輸入銭が国内流通の主流となり、商業の発展や年貢の貨幣化を加速させる要因となりました。